

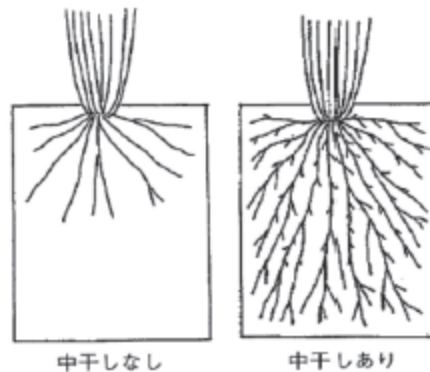
# いわて平泉米だより

令和4年6月号

## 中干しを行い、活力のある 稲を作りましょう

- 1株当たりの茎数が25本程度になったら、降雨が比較的少ない6月25日までに開始し、幼穂形成期（7月10日頃）までに終わらせてください。
- 田面に小さな亀裂が生じ、軽く踏んで足跡が付く程度が中干しの目安です。
- 中干しの後は間断灌がいで管理し、幼穂形成期には水深4～6cmになるようにしましょう。一度に深水にすると酸素欠乏になり、根に障害が出る事があります。
- 中干しと併せて溝切りを実施することで、中干しの効果を高め、秋作業の地耐力を高める効果が期待されます。

水管理と根の分布



JAのLINE公式アカウントにおいて営農情報を発信します。  
お友だち追加をお願いします。